

学生の視点で見た理想の大学図書館

第4分科会、実現案一覧

目的・目標	実現案の概要	①組織体制・制度	②要員(人材育成)	③設備・経費など
小中高生に対して情報リテラシー能力の獲得を促すことで、入学後の学習をスムーズにする				
1.1 ・1年以内に附属学校へ企画書を提案する	「付属の小学校、中学校、高校の児童、学生へ情報リテラシー教育を行う」 ・付属学校の情報リテラシー教育ニーズを調査する(教職員に直接尋ねる、年度報告書等を調べる) ・企画書を作成し、図書館管理職へ提案する ・管理職から付属学校へ提案してもらう ・授業内容の詳細を付属学校の教員と打ち合わせる ・実施後、学生へアンケートを取り改善へつなげる	附属学校の教職員との連携		
1.2 ・1年以内に企画書を教務部門へ提案する	「自大学入学前の学生へ、教員と連携して入学前課題を作成し配布する」 ・入学前に情報リテラシー教育を行う必要性を示す事実を入学生オリエンテーションや、図書館セミナーから収集する ・収集した事実をもとに企画書を作成し、管理職へ提出 ・教務部門と相談の上、学部・学科単位で許可の出たところと詳細について打ち合わせる ・教員と連携して課題を作成し、入学前郵送書類と一緒に送付 ・課題は図書館のアドレスへメールで提出してもらい、メールで採点結果を返送 ・実行結果をまとめ関係各部署へ報告する	教務部門、教員との連携		
他部署連携による教学データの有効活用を推進すると共に、設備運用の工夫により教学活動を支援する				
3.1 1年度内に実現する	「他部署からの協力を得る」 ・図書館が協力できることを他部署にヒアリングする ・図書館が協力してほしいことを他部署に提示する ・図書館PDCAで評価してフィードバックする	・他部署との連絡会を設置する		
3.2 1年後までに実現する(パスファインダーは随時追加する)	「授業に関連する資料の集中提供」 ・NDCを使用した授業の分野別分類をシラバスと連携させる ・参考資料情報、教員の執筆した論文、パスファインダー等の授業に関連する情報をより簡便に学生へ提供する	教務担当部署と調整する		システム管理経費 分類付与費用
3.3 年度内に実現する	「書評等によるライティング能力の育成」 ・POP作成をしてもらう ・書評コンテストを開催する ・ビブリオバトルへの学生参加を促す ・卒業生中心の読書会		審査委員	
自分の考えを構築、表現するための道具を身につけることにより、社会人基礎力を養う				
4.1 ・1年以内に実現可能性調査報告書をまとめ、管理職へ提出する	「図書館の事業に社会人基礎力養成を組み入れる」 ・実現可能性調査のためのプロジェクト編成 ・プロジェクトチームが必要・メリットの明確化、実現方法の提示、各実現方法の見込みコストの調査、懸念事項のリストアップを行う ・調査結果をまとめた報告書を管理職へ提出する	図書館内のレファレンス部門担当者でプロジェクトを組む	なし	なし
4.2 ・3年以内に時事問題の要約、キーワード解説、参考資料紹介を600回以上行い、閲覧者数30,000人以上を達成する ・3年以内に、朝刊ディスカッションを図書館のルーティン業務にする ・4年以内に朝刊解説講座担当TAを養成する	「図書館サービスとして社会人基礎力養成事業を行う」 ・図書館サイトを使用して時事問題を要約し、キーワード解説、参考資料紹介を行う(RSS対応) ・毎朝30分程度、図書館員が主導しながら、学生と朝刊記事トピックについてディスカッションを行う ・図書館員が監修しながら、教育活動の一環としてTAによる朝刊解説講座を図書館内で行う ・記事閲覧人数、ディスカッション参加人数、参加者へのアンケート調査により事業を評価する	・研修を受けて、スキルを身につけた図書館員が担当して実施する	・政治、経済、経営に詳しい図書館員の養成 ・教員を講師として、ディスカッションをファシリテートできる図書館員の養成	・日経新聞の購読 ・日経テレコンの契約

学生の視点で見た理想の大学図書館

目的・目標	実現案の概要	①組織体制・制度	②要員(人材育成)	③設備・経費など
幅広い資料を利用できる機会を提供することにより、教養を身につけた学生の人間形成を支援する				
5.1 ・1年以内に計画をまとめ、2年以内に実行する	「スマートルームプロジェクトの展開」 ・学生選書ゾーン、時事問題ゾーン、キャリア支援ゾーンなど、ゾーニングによる幅広い蔵書構成を実現する。 ・プロジェクトチームの編成 ・ゾーニング企画書の作成(改装後の運用についても考えておく) ・改装に掛かる費用の見積もりを業者に依頼 ・展示資料や備品の選定、購入 ・改装後の資料展示	スマートルームプロジェクト(図書館改装委員会)	プロジェクトメンバー	・改装費用 ・図書購入費用
5.2 ・1年以内に組織編成し、活動を開始する	「サブジェクトユニオンによる相互補完プロジェクト」 ・詳細な機能や活動内容を検討する ・他館の専門分野を調査し、参加館を募る ・サブジェクトユニオンを組織し、資料の提供や依頼方法等運営について検討する	サブジェクトユニオン(専門分野別図書館連合)	参加図書館	・資料送付料金
大学の個性や専門を理解し、利用の趣旨や専門を分析することにより、使える図書館にする				
6.1 ・3年後までに新たな図書館運営体制を構築する	「自大学図書館の強み弱みを理解した図書館運営」 ・評価指標の作成、自己点検の実施 ・図書館職員の専門性の明確化 ・大学図書館の位置づけを理解するための分析を外注する ・分析結果を公表して評価を受けるとともに、学内会議で報告する ・自大学の強みを生かしつつ、弱みをカバーする他大学図書館との学科間連携を実現する	・部署横断図書館評価プロジェクト		・自己点検結果に基づき理事会を説得し、必要予算を獲得する
6.2 ・6.1と並行して実現する	「図書館PDCAの確立」 ・利用者動向の把握 ・評価チームによる分析と評価 ・現場職員による改善活動	・部署横断図書館評価プロジェクト		
6.3 ・6.2の実現より2年以内	「学生一人一人の居場所のある図書館」 「学生の利用目的に応じたエリアの再構築」 利用人数に合わせたグループ室を作る(量のゾーニング)	スマートルームプロジェクト(図書館改装委員会)	図書館改装委員長他	改装費用
6.4 ・6.2の実現より2年以内	「サブジェクトユニオンの結成」 ・専門分野の図書館が連携して学生の希望する資料を提供する(質のゾーニング)	サブジェクトユニオン(専門分野別図書館連合)	幹事図書館(長)他	資料購入費 ILL経費予算
専門性の高い職員を養成し、多様なマンパワーとの連携・活用により、より良いサービスを提供する				
7.1 ・2年後までに実施	「10年後の図書館員に必要な専門性を確認する」 ・専門知識を継承していくためのマニュアル整備 ・人事異動によるサービス質低下の解決策としての委託化 ・ディスカッションを実施して、自館の専門性について報告書をまとめて公表する。	部署内全員での取り組み		委託料がかかる
7.2 ・7.1のディスカッション後1年以内に行う	「専門性を獲得するための研修プログラムを構築する」 ・外部から講師を招き講習を受ける ・獲得した新たな知識・技術をマニュアルへ追加する ・理解度の検証	学内大学院進学助成制度の活用		講習会にかかる経費
7.3 ・7.1.7.2の後に実施	「多様なマンパワーとの連携・活用により、より良いサービスを提供する」 ・学生の図書館業務への参加 ・新たな企画の立案・実行	学生組織の編成	業務参加学生の育成	謝礼金